

第2回「震災を考える日」の取り組み

超巨大地震

東日本大震災緊急報告

～8000kmの現地調査による大津波の実態とその惨状、
カウントダウンに入った南海地震津波を生き抜くために～

申込不要
参加費無料

日時：平成23年8月5日（金）
午後1時00分～午後2時40分

会場：大阪市立大学
学術情報総合センター
10F 大会議室

定員：250名

主催： 大阪市立大学理学研究科

協力：大学広報室

講演概要

2011年3月11日14時46分、M9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、東北日本の太平洋岸を大津波が襲いました。原口 強准教授（大阪市立大学大学院理学研究科）は気仙沼市から海域の被害調査の救援依頼を受け、3月26日に現地入り後、市役所内を拠点に気仙沼港内の探査を自衛隊の全面支援で実施し、津波後の海底の実態を初めて明らかにしました。

その後、2ヶ月をかけて青森県下北半島尻屋崎から千葉県野島崎まで走行距離約8000kmの現地踏査を行い、福島原発事故での立入禁止区域以外の津波浸水域を明らかにしました。調査結果はリアルタイムでインターネット上に公開し、気仙沼市、陸前高田市、大船渡市には大判ポスター印刷した浸水マップを提供し、救援・復旧活動に活用頂いています。

講演では、最新の知見をもとに今回の地震、津波のメカニズムなどについて解説し、現地でみた東日本大津波の実態と惨状を報告します。次に、カウントダウンに入った南海地震津波に対し、大阪の地形や地盤の成り立ちを背景に、地震と津波に備えるべき内容をお伝えします。

講演者紹介

原口 強（はらぐち つよし）

所属 大阪市立大学大学院 理学研究科 准教授
（環境地球学・都市地盤構造学研究室）

学歴 1979年3月 広島大学理学部地学科卒業

1998年9月 東京大学大学院工学系研究科地球システム工学専攻修了

職歴 1979年 復建調査設計株式会社

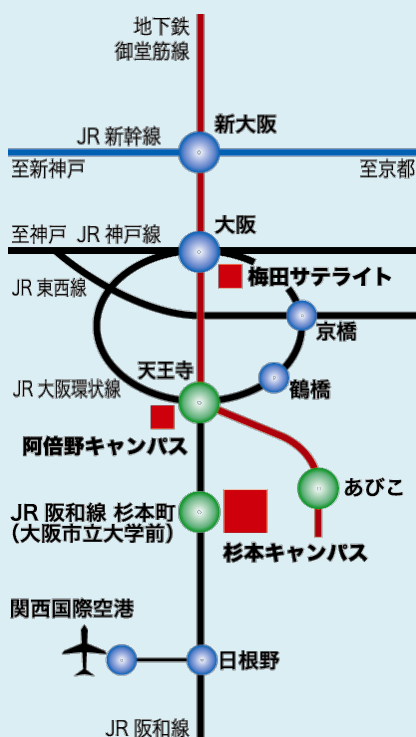
2003年10月 大阪市立大学大学院理学研究科

学位 博士（工学）1998年9月（東京大学）

資格 技術士（応用理学部門）

専門分野 地質工学、活断層研究、第四紀地質学

所属学会等 応用地質学会、地盤工学会、土木学会、第四紀学会、地すべり学会、AGU、活断層学会



アクセス

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

JR阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東へ徒歩約5分

地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分

問い合わせ



公立大学法人大阪市立大学 大学広報室

TEL : 06-6605-3411 FAX : 06-6605-3572

<http://www.osaka-cu.ac.jp/>